設備工事業

お客様の笑顔のために技能を磨く

7-11　島根電工株式会社

県内 No1 の実績を誇る設備事業者として

島根電工株式会社は、電気工事、水道工事、通信関連工事など、建物に付随する設備の設置工事を行う会社であり、約 300 名の従業員がいる。県内最大手であることから、たとえば島根県立美術館などの県内でも有数の建築物の設備関連工事を行った実績を有している。

事業は大きく法人向けと一般向けのビジネスに分けられる。「法人向けビジネスは受注量が減少傾向にあることから、今後の事業拡大のために、近年は一般向けの比重拡大を目指しています。」と、工務部長の江角氏は語る。

県下有数の工事を手がける島根電工

建築配管技能士からステップは始まる

当社のビジネスは各種の設備工事であり、種々の工事の実施に際しては、さまざまな資格要件が必要になる。資格がないと仕事ができないというのが実態である。たとえば、電気工事については電気工事士の資格がないと業務ができない。

当社業務の中で技能士が活躍しているのは建築配管の分野である。これについては、1・2 級合わせて 16 名の技能士が在職している。加えて、冷凍空気調和機器施工技能士、給水装置工事配管技能者、計装士などがあるが、これらの資格の基礎となるものが配管技能士だと位置付けている。同社人事部長の松原氏は「配管技能士を含め、これらの技能検定は法的に取得が義務付けられているものではないですが、技能レベルの到達度の目標として設定しています。」と、その位置付けを語る。

事業戦略上の重要性が増してきた技能検定

検定合格・資格取得は昇進・昇格等の必要要件である。かつて、資格手当は月次の賃金に加算されていたが、今その手当はない。これは取得することが当たり前となったためである。

このような技能士を含めた資格については、建設業の関連団体（顧客を含め）からみれば、工事会社の社員としては当たり前に持っているものと思われている。

しかし、先に述べたように、同社の事業戦略は一般顧客の開拓にある。そこでは、顧客に対する安心感や要望に対する対応力が競争上重要となってくる。ここで技能検定が輝きだす。同社では、施工者が技能士であるということで、一般顧客の安心感の醸成（じょうせい）につながることを期待しているのだ。このため、同社では、1 級技能検定に合格したものには、必ず名刺に技能士と記載することとしている。

同社の事業戦略上、技能検定は重要性が増してきているようだ。

全社一丸、技能検定合格にまっしぐら

当社社員には技能検定受検を奨励しており、報奨制度を設けている。検定や試験の受検料、講習会等の参加費を会社が負担しており、めでたく合格できると報奨金が出される。水道分野では入社後 5 年後くらいをめどに 1 級の配管技能検定に合格というのが一般的だそうだ。

検定合格のために社内でも研修会を実施している。これは日常的に実施されており、事業所ごとに集合教育を実施している。講師は社員が務めるが、その優秀さゆえ、他社から講師派遣の依頼が来るようだ。社員同士での教えあいも活発であり、12 月の検定試験前などは休日返上で対策に協力しているという。

まさに、全社を挙げて検定合格に取り組んでいるのだ。

島根電工株式会社

- 業種　設備工事業
- 住所　島根県松江市東本町
- 代表者　陶山　秀樹
- 設立：昭和31年
- 従業員：294名
- 技能士：20名　延べ29名

技能士へのインタビュー

筒井　健氏　（25 歳）　1 級配管技能士

住宅の配管設備工事はお任せください

話を聞かせてくれたのは、1 級配管技能士である筒井技能士だ。

彼は工業高等学校電子機械科を卒業後、島根電工に入社した。電子機械科の卒業生は製造業関係の仕事につくことが多いのだが、「自分は手に職をつけられる仕事に就きたかった」ことから、島根電工を選んだ。

入社 7 年目になる現在は、島根電工安来営業所で工務部設備工務課班長として、主に給排水衛生設備工事を担当している。一般住宅等の給排水衛生設備工事の業務が彼の仕事だ。

一般住宅の仕事は多岐にわたる。このため現場で仕事を円滑に進める上で多数の資格が求められる。彼は、1 級配管技能士に加えて、給水装置工事主任技術者、2 級管工事施工管理技士、下水道排水設備工事責任技術者、第 2 種電気工事士の資格まで持っている。すべて仕事の上で必要だと感じたから資格を取得したという。仕事に対する情熱が、検定合格や資格取得に走らせたということだろう。

お客様の笑顔が何よりのやりがい

入社以来、技能を培ってきた筒井技能士だが、現状の自分の技能に満足してはいない。まだまだ難しいと思う仕事がある。たとえば「管径が大きい配管」の工事だったり、「短時間で仕上げなければならない」様な場合。わずかな誤差やちょっとしたミスが仕事の完成を遅らせる。だから常に自分の技能と経験を信じて仕事に当たっている。こうした緊張感を持ちながらの毎日だが、「お客様のところへ行き工事を完成させたとき、お客様に喜んでいただいて笑顔を見られたときに達成感があって、仕事をしていてよかったと思います。」と、仕事に対する充実感を語ってくれた。

工事の様子

日々の仕事に活かされる技能検定

多数の資格を駆使して現場で活躍する筒井技能士だが、このような技能の習得は、自分の努力のみならず、会社からの支援があったことも忘れてはいない。「入社 1 年たたないころ、『2 級建築配管技能検定の実技試験の成績が優秀であったら、技能五輪の県代表に選ばれるかもしれない。受けてみないか』と上司から奨められて受検したのが最初でした。それをきっかけにして若いうちに技能検定や資格試験に挑戦しようと思うようになりました。」と、上司からの励ましがきっかけとなったことを話してくれる。

こんな筒井技能士だが、検定受検のメリットをどのように感じているのだろうか。「技能検定を受検してよかった点は、作業していく上での注意事項や施工方法の意図が分かり、作業に対する注意力や仕事をする上での視野が広がったことです。また、技能士であることで、お客様に安心していただけると思っています。」と語る。自分の業務と技能検定が密接に関係していることを感じているようである。

「まだまだ勉強です！」

今後に向けて、彼は継続的な勉強の必要性を感じている。「技能士に求められる技能の内容は変わっていくと思います。使用する材料や機器が新しくなるたびに作業方法も変わり、現場で求められる技術は常に進化しています。だから、検定合格後も勉強が必要なんです。」そういう彼は、新しい技術の講習会に出かけたりと技能向上を怠らない。

今後は部下の指導･育成が大きな役割だと思っている。「1 級の技能検定に合格したときには、先輩に近づいたという達成感がありました。今後も先輩に近づけるよう、後輩に尊敬される、お客様に信頼される人物となりたいです。まだまだ身に付けたいことが多数あるので今の職場でがんばりたいと思っています。」と、笑顔にはまだかすかにあどけなさが残る筒井技能士。その技能と情熱は島根電工を支える大きな柱となっているようだ。